

新城市は戦国の歴史と史跡の宝庫

1575年
天正3年旧暦
5月21日

その角を曲がる【長篠・設楽原の戦い】
・戦いの経緯と何かがあ

武田信玄亡きあと、跡目を継いだ武田勝頼は
1万5000の軍隊で、徳川方の奥平貞昌が
500の兵で守る【長篠城】取りを囲みました。

この事態に陥った徳川家康は、岐阜の織田信長
に援軍要請を求め、(清州同盟)長篠城外の
設楽原において、織田信長と徳川家康の連合軍
は、戦国最強の武田騎馬軍団と戦いました。



【長篠の古戦場へのタイムスリップ】:ゆっくり歩いてみよう!

【織田信長・徳川家康軍はなぜ勝てたのか】

- ①長篠城の守りが固く落ちなかったこと。兵士の士気が高く兵糧も十分にあった。・長篠城は、天然の要害の地、川面から25mの断崖上に築かれたお城。
- ②長篠城から離れた、設楽原の連吾川右岸に【馬防柵】を築き、大量の鉄炮で、武田軍を待ち受けた事。
- ③長篠城の背後を突く、酒井忠次軍の、鳶ヶ巣山【奇襲作戦が成功した】事。
鳶ヶ巣山攻撃で、武田軍の背後から、鉄炮の音が聞こえ武田勝頼軍に、退路を断たれた感じを与えた事。
- ④長篠城を脱した鳥居強右衛門と、鈴木金七郎の使者が、【長篠城】と【設楽原】の情報を伝える事が出来た事。
- ⑤リーダーの戦いの経験年数の差(つまり年齢)・勝頼は若すぎた。

織田・徳川連合軍



どうする家康：長篠古戦場を駆け巡れ！

① 鳥居強右衛門城址の礎
350m 徒歩10分

② 堀壕 (長篠城跡)
350m 徒歩10分

③ 馬場信春の墓 (ゴブリンスタンド前)
150m 徒歩5分

④ 中央橋道線・長篠露頭
100m 徒歩5分

⑤ 鳥居強右衛門の墓 (新昌寺)
300m 徒歩7分

⑥ 鳥居強右衛門破死の礎
300m 徒歩7分

⑦ 中洲橋
400m 徒歩10分

⑧ 中山砦跡
1200m 徒歩30分

⑨ 鳶ヶ巣山砦跡
2300m 徒歩50分

⑩ 大進寺
850m 徒歩15分

⑪ 飯王寺
徒歩20分

⑫ 武田勝頼本陣跡

⑬ 武田勝頼本陣跡

⑭ 武田勝頼本陣跡

⑮ 武田勝頼本陣跡

⑯ 武田勝頼本陣跡

⑰ 武田勝頼本陣跡

⑱ 武田勝頼本陣跡

⑲ 武田勝頼本陣跡

⑳ 武田勝頼本陣跡

㉑ 武田勝頼本陣跡

㉒ 武田勝頼本陣跡

㉓ 武田勝頼本陣跡

㉔ 武田勝頼本陣跡

㉕ 武田勝頼本陣跡

㉖ 武田勝頼本陣跡

㉗ 武田勝頼本陣跡

㉘ 武田勝頼本陣跡

㉙ 武田勝頼本陣跡

㉚ 武田勝頼本陣跡

㉛ 武田勝頼本陣跡

㉜ 武田勝頼本陣跡

㉝ 武田勝頼本陣跡

㉞ 武田勝頼本陣跡

㉟ 武田勝頼本陣跡

㊱ 武田勝頼本陣跡

㊲ 武田勝頼本陣跡

㊳ 武田勝頼本陣跡

㊴ 武田勝頼本陣跡

㊵ 武田勝頼本陣跡

㊶ 武田勝頼本陣跡

㊷ 武田勝頼本陣跡

㊸ 武田勝頼本陣跡

㊹ 武田勝頼本陣跡

㊺ 武田勝頼本陣跡

㊻ 武田勝頼本陣跡

㊼ 武田勝頼本陣跡

㊽ 武田勝頼本陣跡

㊾ 武田勝頼本陣跡

㊿ 武田勝頼本陣跡

- 長篠城址史跡保存館では、長篠城址周辺の史跡巡りの為にレンタル自転車の制度を整えています。5台の電動自転車を用意して史跡探訪をする方の便利を計っています。鳶ヶ巣山砦、中山砦を除けば平坦なエリアが多く、自転車を利用することで効率よく、短時間で史跡の探訪が出来ます。精細は史跡保存館の受付でお願い致します。 ☎0536-32-0162 火曜日休館日

① 先ず長篠城址史跡保存館に入館して、戦国の気分を味わいこの地図を入手します。・・

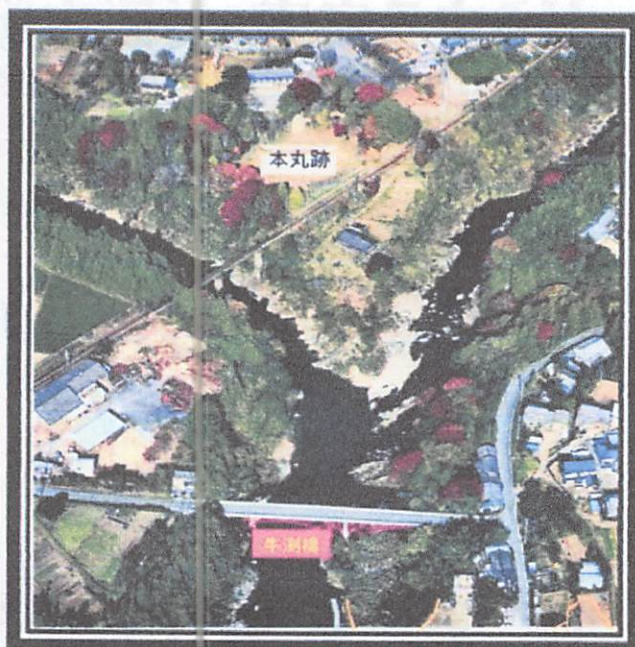
このエリアの食事処です
是非御利用下さい！

美味しさは保証致します。・・ガイド一同

- * **【とくや】**：長篠城址史跡保存館から見える位置にあります。
☎ 0536-32-0159 定休日 月曜日
- * **【長篠食堂】**：国道151号線沿いの長篠城址のすぐ近く。
☎ 0536-32-0505 定休日 木曜日
- * **【こんたく長篠】**：馬場信春塚の手前のJA経営の焼肉店。
☎ 0536-32-0002 定休日 水曜日
- * **【喫茶店フォリクラッセ】**：長篠大橋を過ぎた交差点にあります。
☎ 0536-25-1021 定休日 日曜日 美味しい！
- * 唯一無二の水で入れたコーヒーを頂くことが出来ます。32

【上空からの長篠城址全景】

- ・JR飯田線の線路が城址内を走ります。
- ・林に囲まれた、四角い場所が本丸跡。
- ・寒狭川と宇連川の合流地点が長篠城址。
- ・川面から城址までの高さは、25m程。
- ・牛淵橋の下流周辺に、武田軍は鳴子綱を張って長篠城の警戒をした。
- ・鳥居強右衛門と、鈴木金七郎は、武田軍の警戒の中、長篠城の不浄口から抜け出し、梅雨明け時の水かさが増した豊川の濁流を泳ぎ下った。



【風になびく葦の如く 山家三方衆へタイムスリップ】

地方豪族の生きざま

- ・【田峰の菅沼氏】【長篠の菅沼氏】【作手の奥平氏】の地方豪族は、諸大名の動きの中で、時には人質を差し出し、一族兄弟が敵味方に分かれて戦いました。この山家三方衆の従属と同じく三河の国の長篠城も変遷してきました。

- ・天文年間(1540頃)・・・松平清康死後・・・今川方に従属
- ・永禄3年(1560)・・・今川義元死後・・・松平方に従属
- ・永禄8年(1565)・・・武田信玄侵入後・・・武田方に従属
- ・元亀4年(1573)・・・武田信玄死後・・・徳川方に従属

* 作手奥平氏が武田方から、徳川家康に従属を変えたことが、長篠城の籠城戦から、設楽原の決戦に繋がることになります。

奥三河山家三方衆

- ・長篠城主奥平貞昌の弟：奥平仙千代の墓(14歳) 鳳来寺山麓の門屋地区で祀られています。→ 近くには、於ふう(16歳)虎之助(16歳)の墓も祀られています。・奥平家の礎となり、奥平家に繋がる3人は人質の定めとして処刑されました。

